

令和4年度 第7回広島市感染症対策協議会

- 【日時】 令和5年3月20日（月）19:00～20:00
【場所】 広島市役所14階 第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、高橋 宏明、佐藤 貴、新甲 さなえ、
梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、南 心司

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナワクチン接種について（資料1 P1～3）

ア 接種率（3月12日時点実績）

本市におけるオミクロン株対応ワクチンの接種率は、40.3%（479,492回）であった。

イ 今後の新型コロナワクチン接種について

資料1、3ページ（令和5年3月9日開催 第25回自治体向け説明会資料抜粋）のとおり。

（委員意見）

- ・令和5年度のワクチン接種の接種券について、対象者に適切な時期に送付できるよう準備を進めてほしい。

(2) 新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P4～47）

国は、5月8日からの新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、これまでの行政の関与を前提とした限られた医療機関による特別な対応から、幅広い医療機関による自律的な通常の対応に切り替え、これまで新型コロナウイルス感染症の対応をしてきた医療機関の継続に加え、新たな医療機関の参画を促すための取組みを重点的に進めることとしている。このような中、国から3月10日に「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴う医療提供体制及び公費支援の見直し等について（情報提供）」が発出され、位置づけ変更に伴う医療提供体制の見直し（外来・入院・入院調整）や診療報酬の取扱い、患者等に対する公費支援の取扱い等について具体的な方針が示された。また、都道府県による「移行計画」の策定、設備整備等の支援によって、対応する医療機関の維持・拡大を強力に促し、入院調整についても病床確保を含む行政による調整から、他の疾病と同様に入院の可否を医療機関が判断し、医療機関間での調整を基本とする仕組みへと移行することとなった。

5類感染症への移行に伴う国の医療提供体制の見直し等の発表を受け、広島県は3月14日の会見で、県の対応方針を説明した。県は、5類感染症への移行に向けては、高齢者等の重症化リスクが高い者を守ることに重点を置き、必要な感染対策を講じるとともに、医師会、病院協会等と連携し、幅広い医療機関による対応を進め、必要な医療提供体制の確保に取り組むこととしている。また、国の方針を踏まえ、各種対策等について必要な見直しを行うこととしており、特に医療提供体制の変更に係る具体的方針等については、4月中に「移行計画」を策定し、取りまとめることとしている。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更後の患者の発生動向等については、5月8日以降、感染症法14条に基づく定点サーベイランスにより把握することとし、その報告については、既存のインフルエンザ定点医療機関において実施することとなった。収集する情報は現状のインフルエンザ定点と同様、年齢別・性別件数で週1回の頻度で実施することとなっている。

本市では、3月17日にインフルエンザ定点医療機関向けの説明会を開催し、本件について協力を依頼したところである。

（委員意見）

- ・5月の5類感染症への移行に伴い、医療機関等で混乱が生じないように対応してほしい。

(3) ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種について（資料1 P48～56）

令和5年4月1日から定期接種化が決定している9価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（以下、「9価HPVワクチン」という。）について、3月7日に行われた第45回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会で2回接種の定期接種化が了承され、予防接種実施規則を以下のとおり改正することとなった。

①2回接種の方法について

- ・初回から2回目までの接種間隔は最低5カ月以上とする。

②2回接種の対象年齢について

- ・小学6年生の学年から、15歳の誕生日の前日（15歳未満）までとする。
- ・15歳になるまでの間に1回目の接種を行えば、2回での接種完了を可能とする。

（委員意見）

- ・接種勧奨の方法を工夫し、接種率を向上させてほしい。

2 2月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和4年2月分	令和4年3月分
		報告日 2/7~3/5	報告日 3/6~3/13 現在
2類	結核	5人 (結核3人、潜在性結核2人)	1人 (潜在性結核1人)
4類	レジオネラ症	1人(2/15)	1人(3/10)
5類	アメーバ赤痢	1人(2/7)	
	梅毒	18人(2/7(2人)、2/8、2/10、2/13(2人)、2/16、2/17、2/20(2人)、2/21、2/24(2人)、2/27(2人)、2/28、3/2、3/4)	6人(3/6、3/8、3/9、3/10、3/13(2人))
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1人(2/27)	1人(3/9)
新型インフル	新型コロナウイルス感染症	4,919人	814人

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和5年4月17日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：2月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、2月は2,457人で、前月比0.87とやや減少した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はやや増加、インフルエンザ、咽頭結膜熱はほぼ横ばい、感染性胃腸炎はやや減少、突発性発しんは減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は、減少が続いている（図1）。
2月10日に開催された政府の新型コロナウイルス感染症対策本部において、マスク着用の考え方が見直しされ、3月13日以降は、個人の判断に委ねられることとなった。ただし、高齢者等重症化リスクが高い人への感染を防ぐため、医療機関受診時、医療機関や高齢者施設等の訪問時、混雑した電車やバスに乗る時などは、マスクの着用が推奨されている。また、マスク着用の考え方の見直し後であっても、三密の回避、人と人との距離の確保、手洗い等の手指衛生、換気などの基本的な感染予防対策を続けることが重要である。
- インフルエンザは、第4週(1月23日～1月29日)をピークに減少傾向であったが、第9週(2月27日～3月5日)は定点当たり12.00人の報告があり、増加に転じた（図2）。インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は、3月19日までに87件が報告されている。引き続き、咳エチケット、手洗い、換気、室内の保湿（50%～60%）などの対策を徹底することが大切である。なお、協力医療機関（市内2か所）による今シーズンの迅速診断キット検査結果では、累計1,185人（A型1,180人、B型5人）が報告されており、広島市衛生研究所の検査結果では、インフルエンザウイルスA(H3)型が7件、インフルエンザウイルスB型（ビクトリア系統）が1件検出されている（3月12日現在）。

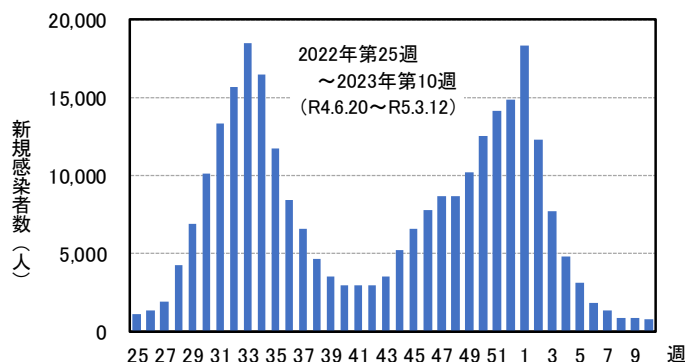


図1 新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移（広島市）

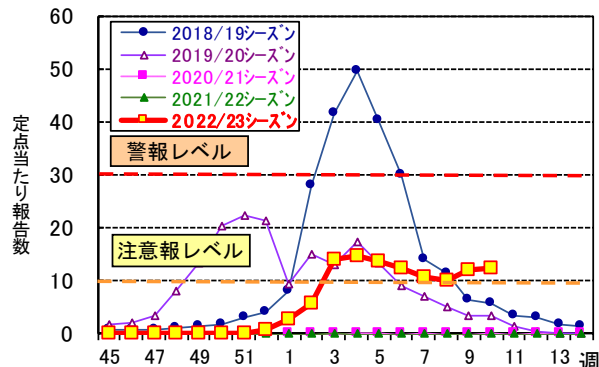


図2 インフルエンザの流行状況（広島市）

- 梅毒の今年の累計報告数は45件（3月12日現在）となり、感染症法施行以降で最多となった昨年と、ほぼ同じペースで報告されている。年代別では、男性は20歳代～50歳代、女性は20歳代が多い。梅毒は、主に性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがある。また、妊婦が感染すると流産、死産、先天梅毒を起こすことがあるため、特に注意が必要である。

(3) 2月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核5件（患者:3件、潜在性結核:2件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：レジオネラ症 1件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件、梅毒 18件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件
- 新型コロナウイルス感染症等感染症：新型コロナウイルス感染症 4,919件

(4) 今後の流行予測

- インフルエンザ・・・【流行中】
- 梅毒・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。
- 新型コロナウイルス感染症の発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

2月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
インフルエンザ	* インフルエンザウイルス A(H3)型	2022年12月	1人
	* ライノウイルス		
	インフルエンザウイルス A(H3)型	2023年1月	2人
感染性胃腸炎			
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 31型	2022年10月	1人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 5型	2022年12月	1人

*：複数病原体検出例

5人の患者から4種類のウイルス6株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H3)型3株、ライノウイルス、アデノウイルス 5型及び同31型各1株であった。

5類感染症定点情報
(令和5年2月解析分)

1. 週報対象(第6週～第9週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		1,665	44.99	流	10	流行性耳下腺炎		2	0.08	
2	咽頭結膜熱		20	0.84		11	RSウイルス感染症		12	0.50	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		55	2.29		12	急性出血性結膜炎		4	0.51	
4	感染性胃腸炎		652	27.16		13	流行性角結膜炎		4	0.50	
5	水痘		9	0.37		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		1	0.04		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		-	-		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん		12	0.49		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		5	0.21		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(2月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		30	3.33
2	性器ヘルペスウイルス感染症		14	1.56
3	尖圭コンジローマ		4	0.44
4	淋菌感染症		16	1.78
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		16	2.29
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和5年2月分)

第6週～第9週(2月6日～3月5日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	5	11	1,056	1,996
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	1	1
	16 細菌性赤痢	-	-	2	3
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	3	68	162
	18 腸チフス	-	-	6	11
	19 パラチフス	-	-	1	2
四類	20 E型肝炎	-	-	47	97
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	-	6	12
	23 エキノコックス症	-	-	2	3
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	2
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	1	1
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-
	32 サル痘	-	-	13	23
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	4	6
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	-	11	45
	41 デング熱	-	-	3	7
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	1	6
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	-
55 マラリア	-	-	2	4	
56 野兎病	-	-	-	-	
57 ライム病	-	-	-	-	
58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
60 類鼻疽	-	-	-	-	
61 レジオネラ症	1	5	96	222	
62 レプトスピラ症	-	-	1	2	
63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	1	2	42	77
	65 ウイルス性肝炎	-	-	26	37
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	1	138	286
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	3	8
	68 急性脳炎	-	-	34	76
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	1
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	14	24
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	67	151
	72 後天性免疫不全症候群	-	-	75	140
	73 ジアルジア症	-	-	4	6
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	22	48
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	2
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	2	120	286
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	22	36
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	18	41	1,155	2,268
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	11	29
	81 破傷風	-	-	2	8
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1	14	25
84 百日咳	-	-	57	101	
85 風しん	-	-	-	-	
86 麻しん	-	-	1	1	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	4	5	
88 新型コロナウイルス感染症 ※	4,919	363,964	504,019	33,240,712	

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。